

White Paper

「DXの本質」

株式会社Mt.SQUARE

Mt.SQUARE

『目次』

- はじめに
- DXの背景
- 企業変革
- デジタル化
- マネジメント
- DXロードマップ
- 会社概要

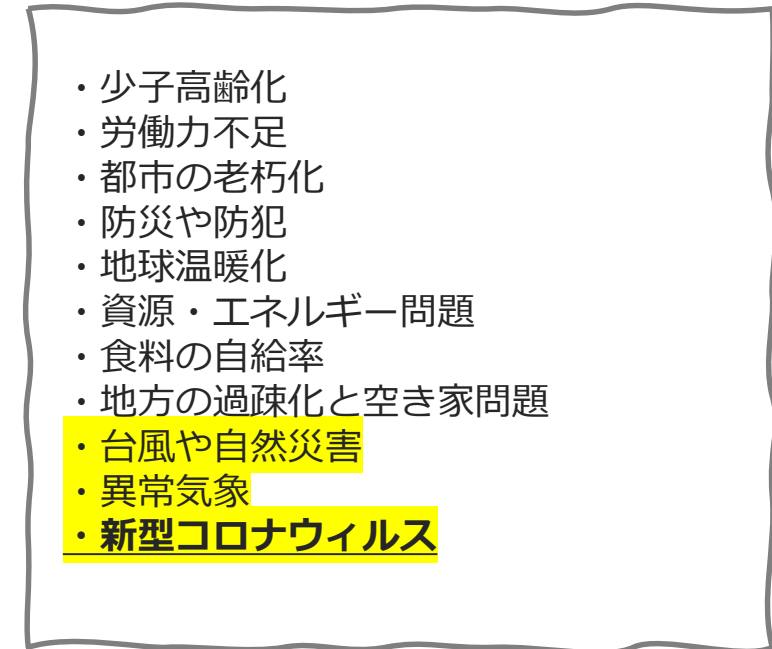
はじめに

『VUCA WORLD』

不確実性の時代



課題先進国、日本

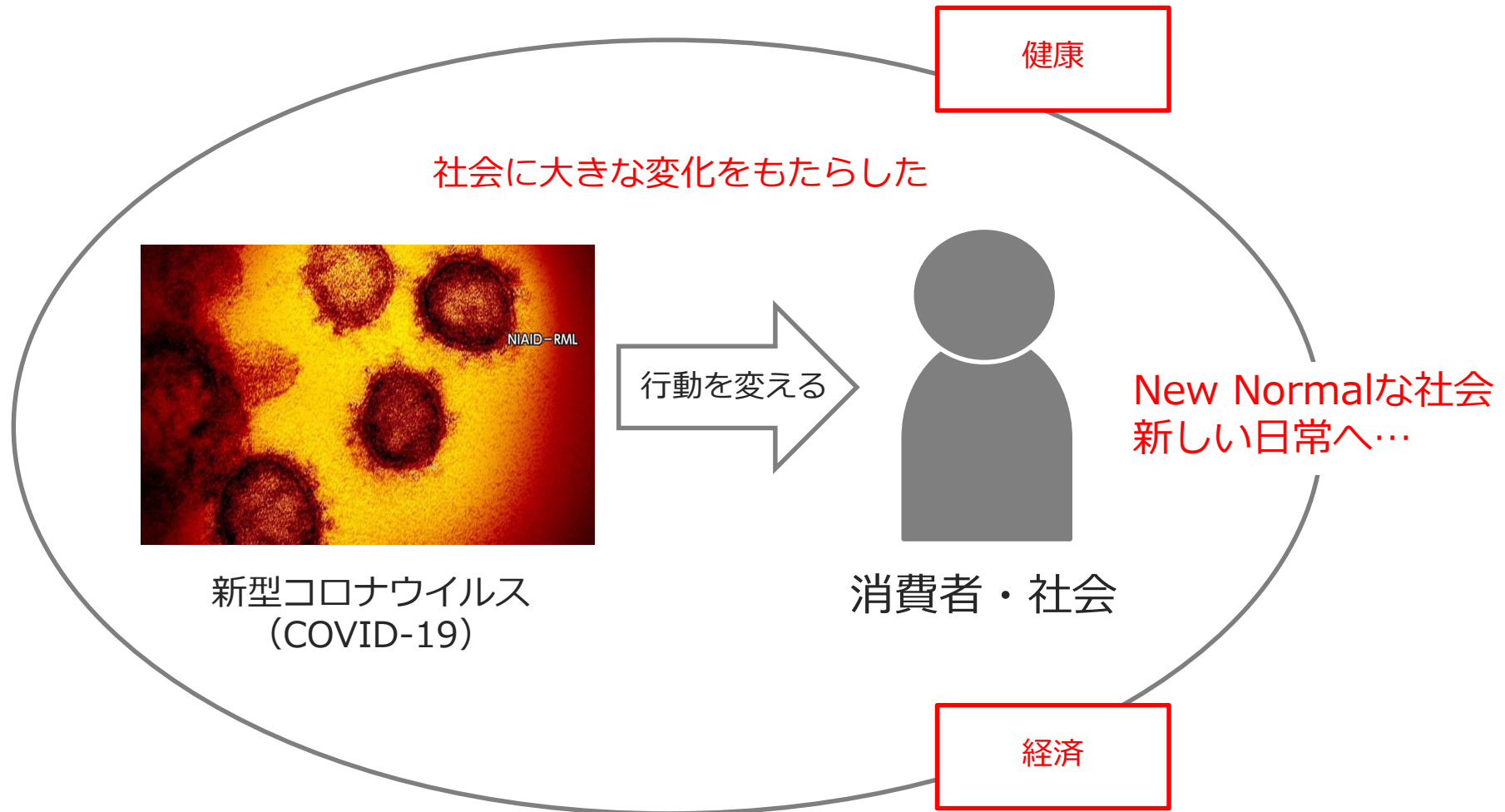


+

持続可能な社会の構築と維持

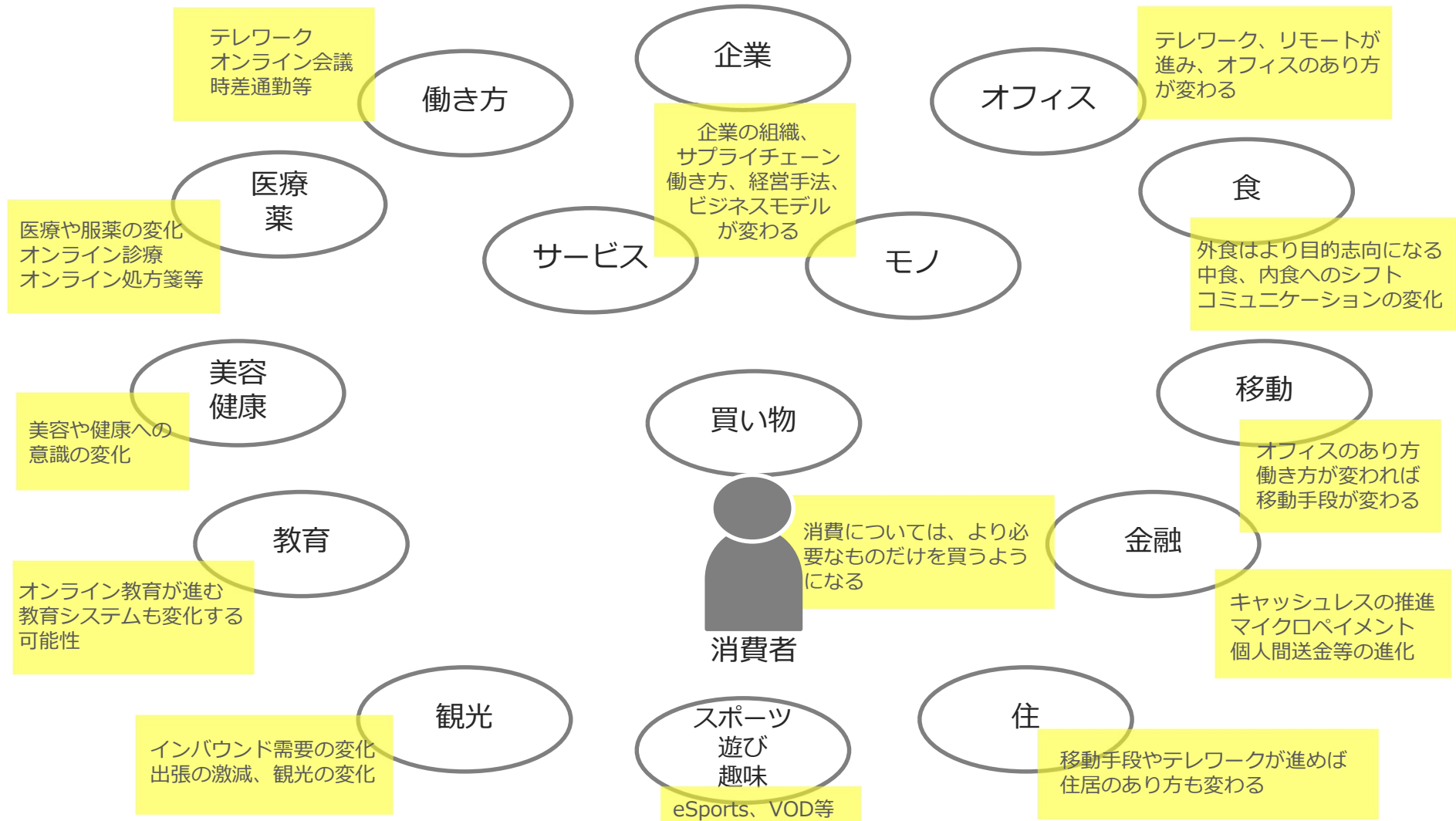
社会的課題を解決するイノベーションが必要

『社会が変わる』



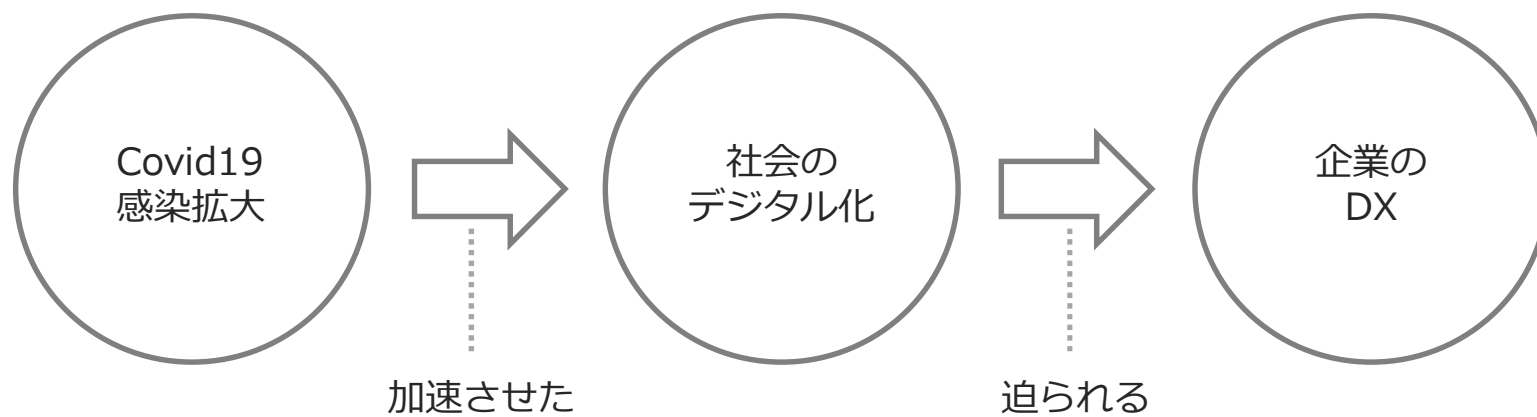
『消費者の変化が社会を変える』

COVID-19の蔓延は、消費者、生活者を中心に社会のあり方が大きく変容する
コミュニケーションの変化、人と人の関係性の変化



DXの背景

『加速するデジタル化』

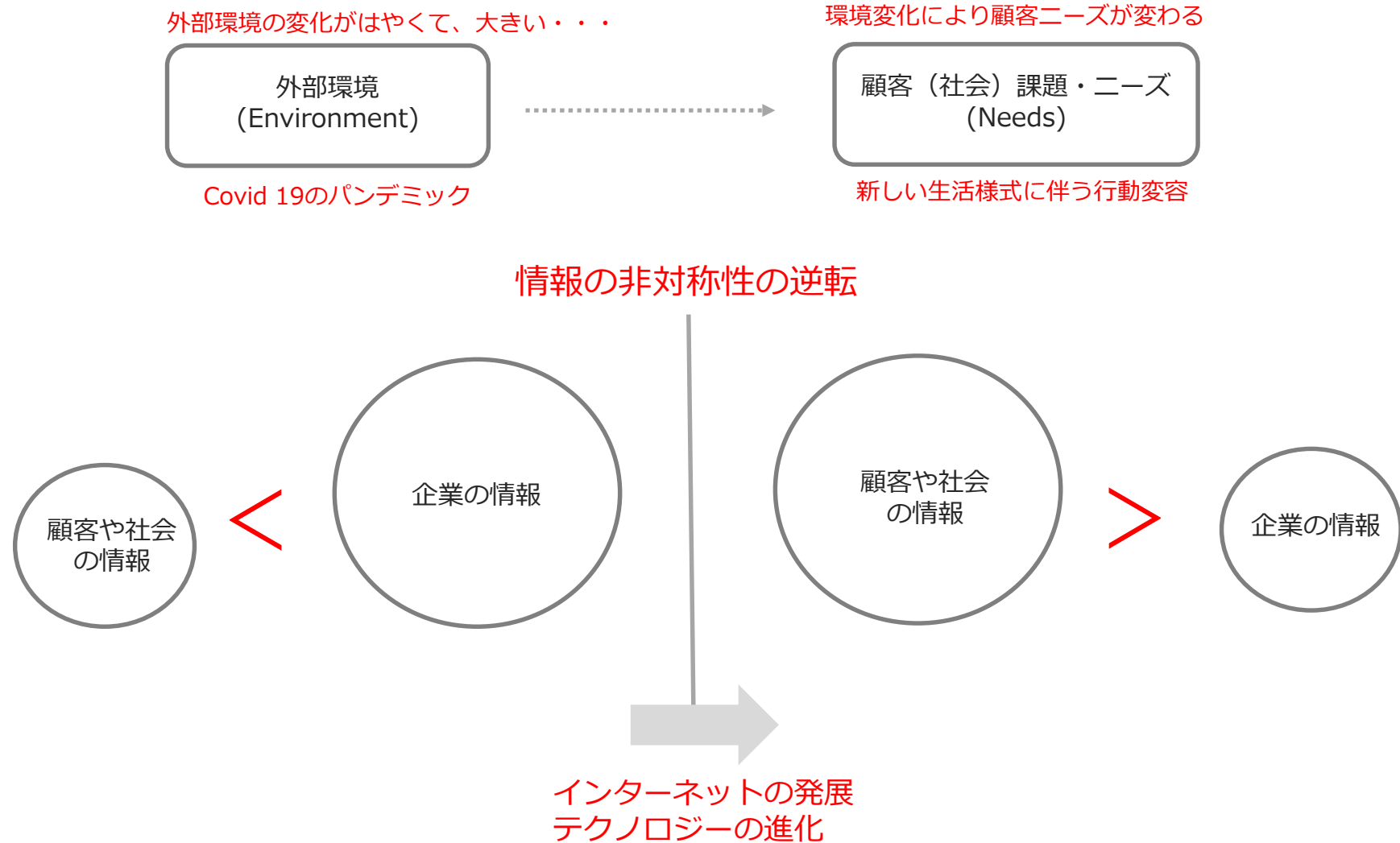


より顧客は目的思考に…

情報の非対称性の逆転

技術的負債からの脱却

『情報の非対称性の逆転』



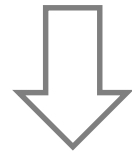
『より目的思考に…』

多様化する顧客行動を捉えて、顧客接点（ネット、リアル、店舗、非店舗等）を増やし、顧客のニーズに対してダイナミックに対応するとともに顧客を深く知る必要がある。

顧客の行動が変わる…

顧客重視ではなく、顧客主導
何よりも一番に優先して顧客のことを考える
企業姿勢

V : Value (付加価値)

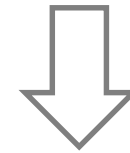


QSCA/P

Q : Quality (品質)
S : Service (サービス)
C : Cleanliness (清潔さ)
A : Atmosphere (雰囲気)
P : Price (価格)

X

S : Situation (状況)



PWWWW+A

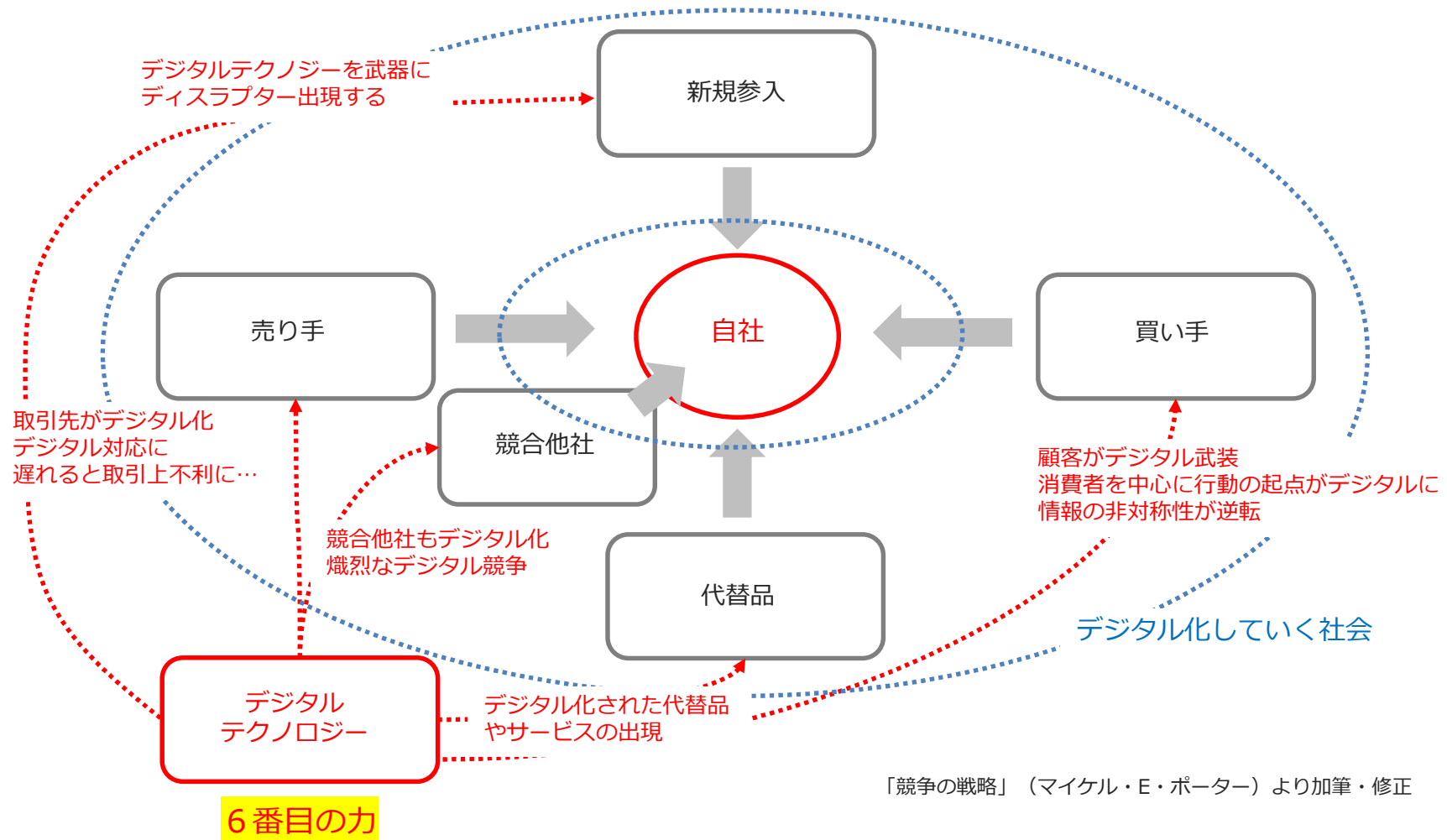
P : Price (価格)
W : Why (なぜ)
W : What (なに)
W : Who (だれと)
W : When (いつ)
W : Where (どこ)
A : Access (アクセス)

顧客を深く知る

新型コロナウイルス感染拡大で
より消費者行動の目的意識は高まる

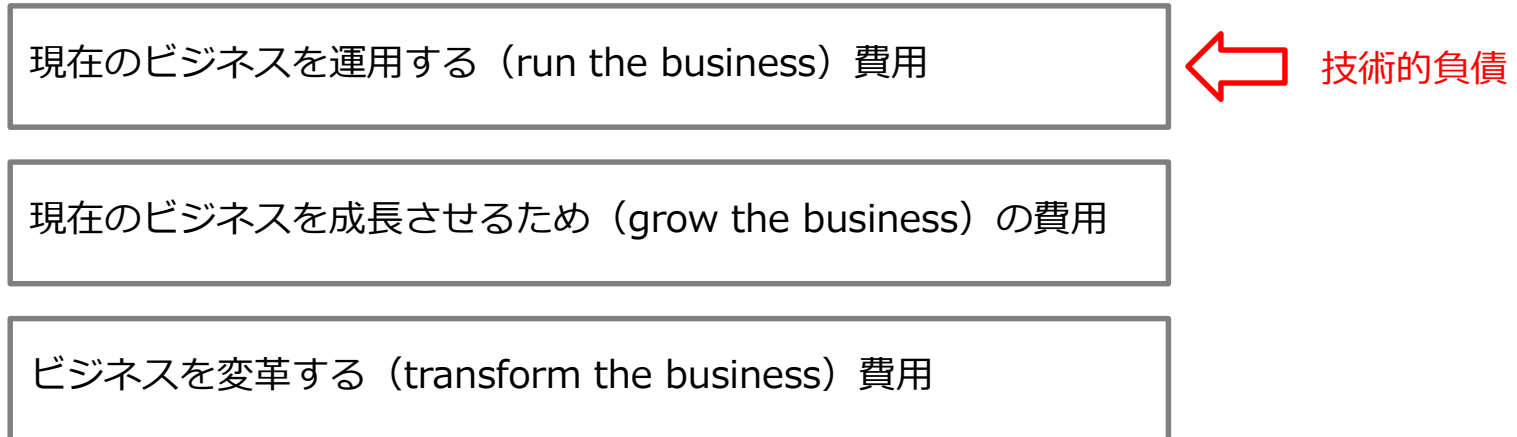
『6番目の力』

デジタル・テクノロジーは、6番目の力として作用し社会をデジタル化していく



『技術的負債』

テクノロジーに関する費用は大まかに次のような費用があげられる。



多くの企業は、現在のビジネスを運用する (run the business) 費用、いわゆる維持・保守の費用が大半を占める。

これは、新しい価値は何も生み出さず、時間とともに陳腐化していくテクノロジーに対して、多くの人と費用をかけていることである。

まさに、負の遺産に対して、技術的な負債を抱えているようなもの。

この技術的負債を解消し、環境の変化に柔軟に対応していくためにも、クラウドシフトは重要なアプローチになる。

『Why DX?』

経済産業省 DXレポート

迫る「2025年の崖」問題

- ・ 老朽化した既存のレガシーシステムがDXを推進する上での足枷となる。
- ・ 2025年までにシステムを刷新しないと、それ以降、年間12兆円の経済損失の可能性がある。

DXが必要な3つの理由

① レガシーシステムの限界

既存のモノリシックなシステム構造ではビジネスの成長は見込めないだけでなく、環境の変化に柔軟に対応できない。

② 顧客や社会の変化

顧客や社会のあり方や価値観は大きく変化し、多様性にとんでいる。
消費はモノからコトへ、所有から使用へ、コト付きのモノへと変化している。

③ テクノロジーの進化

テクノロジーの進化は指数関数的なスピードで進化している。
クラウド、人工知能、IoT、5G、ブロックチェーン等の目覚ましい発展がある。
デジタルネイティブな企業によるディスラプションへの対応も迫られる。

『デジタル化するか？それとも死か？』

経営学者であるフィリップ・コトラーが言った
「デジタル化するか？それとも死か？」

デジタル化する社会

6番目の力
デジタルテクノロジー

Digitalization ?

Or

Dead ?

DXの本質

『DXとは?』

【デジタル・トランスフォーメーションの定義】

「企業がビジネス環境の激しい変化に対応して、データとデジタル技術を活用し、顧客や社会のニーズをもちに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化、風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。その結果として企業として安定した収益が得られるような仕組みを構築することである。」

デジタル・テクノロジーを活用して企業変革を行うこと

企業変革とは、企業のビジネスモデル、組織、機能・プロセス、企業文化や風土までも変革すること

D < X

「DX」は、**経営の課題**として捉える

『DXを推進する3つの要素』

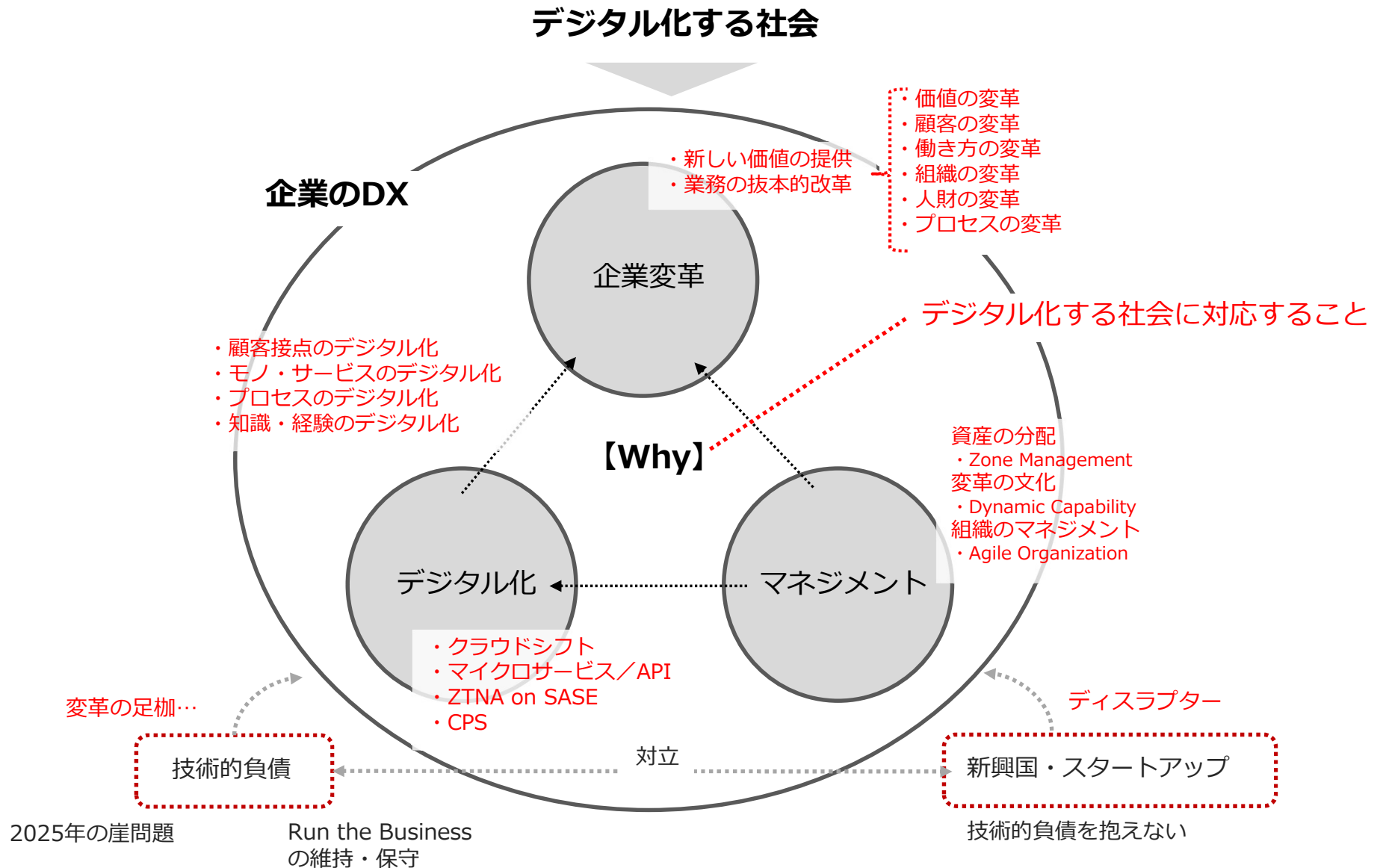
経営課題として捉え、「DX」を推進する3つの要素

企業変革

デジタル化

マネジメント

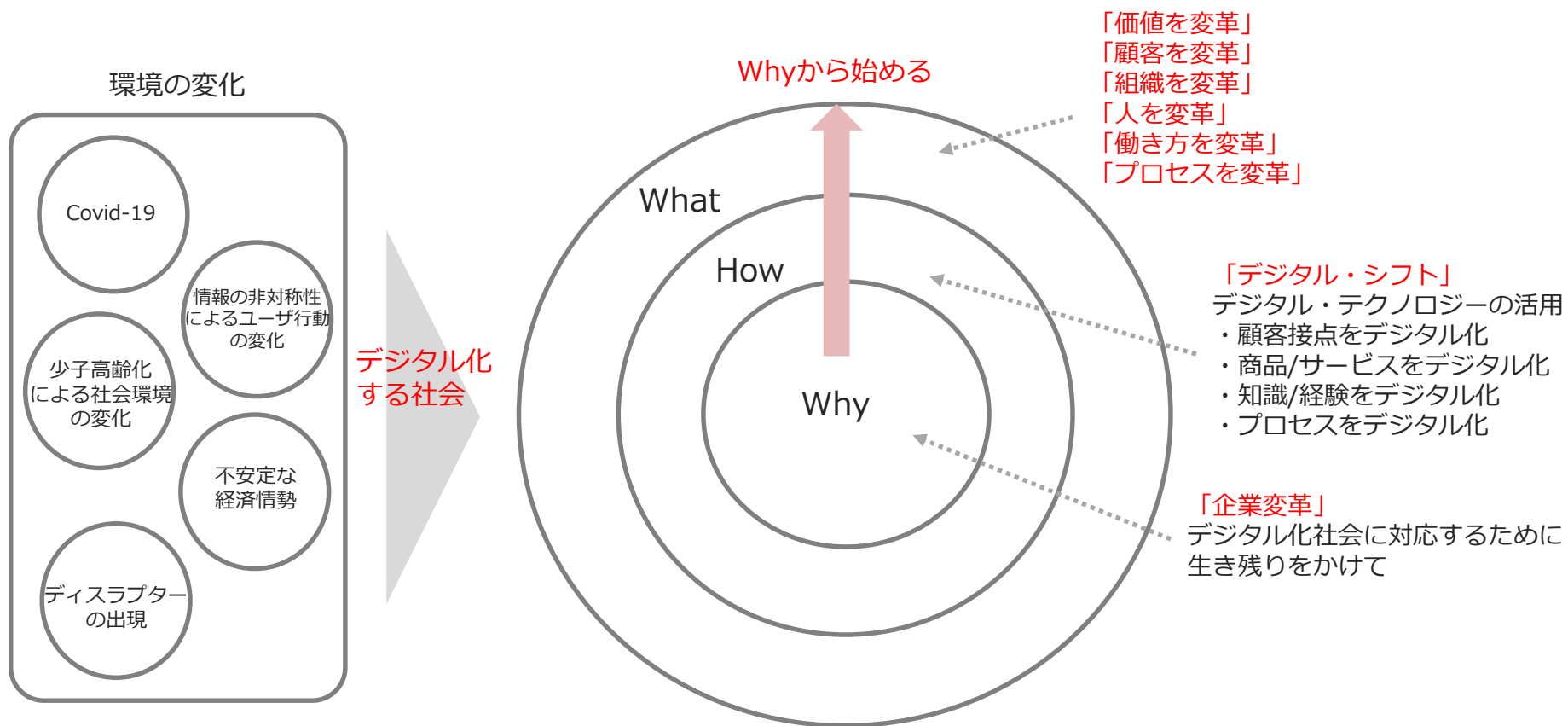
『DXを推進する3つの要素の関係』



企業変革

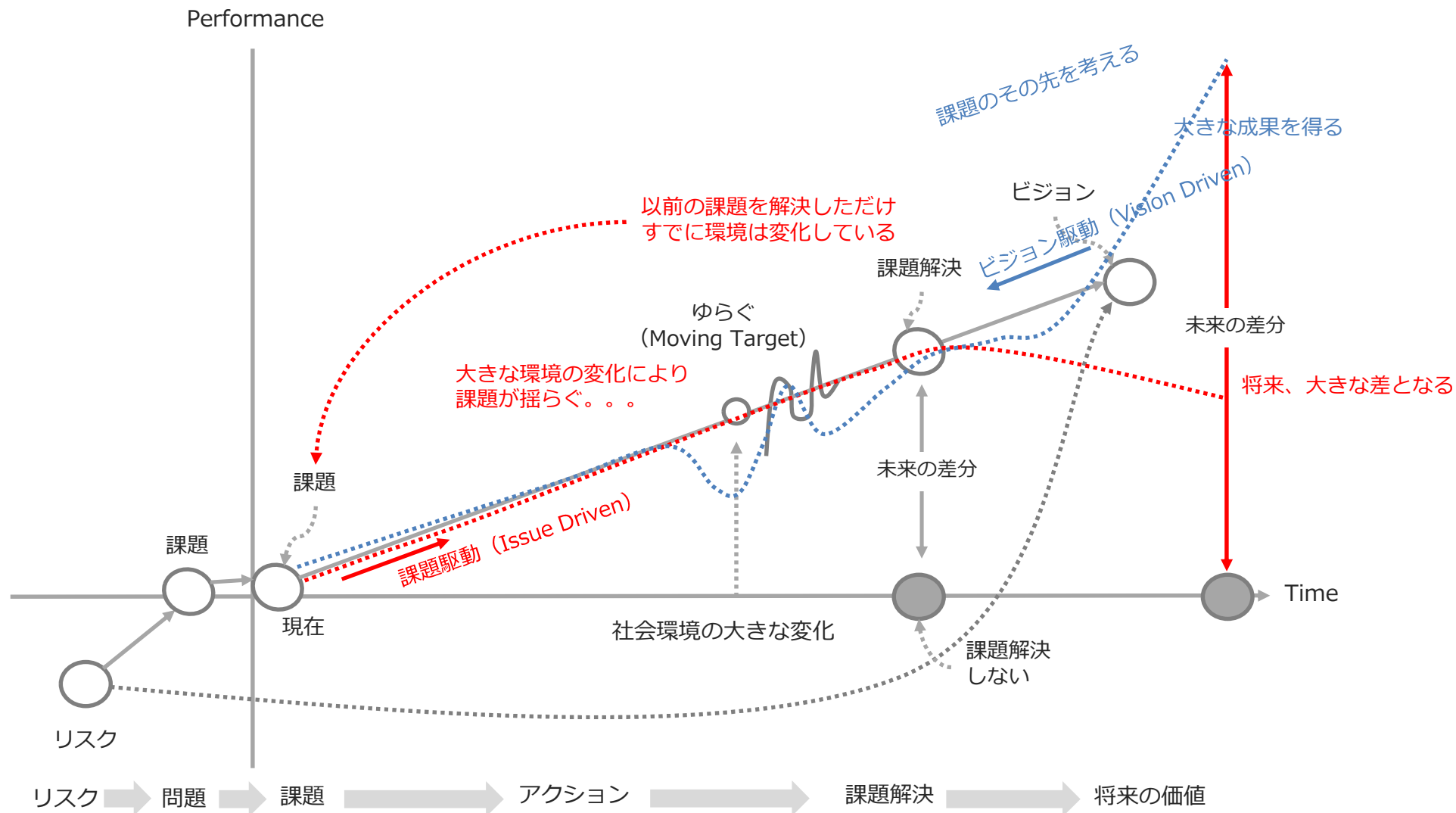
『目的思考（指向）』

「DX」と「ゴールデンサークル」における「目的思考（指向）」



サイモン・シネック「Whyから始めよ」
ゴールデンサークル

『未来思考（指向）』



『デジタル・シフト』

デジタル・シフトのポイント

「顧客接点」のデジタル化

「モノ・サービス」をデジタル化

「知識・経験」をデジタル化

「プロセス」をデジタル化

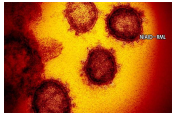


デジタルシフトを起点とした
企業変革

『DXの目的語を探す』

コロナショックが加速させるデジタルシフトと変革
デジタルテクノロジーを活用して何を変革するのか？

新型コロナウイルス
(COVID19)



コロナショック

加速させる



クラウド変革



価値の変革

顧客の変革

ワーク変革

人の変革

プロセスの変革

組織変革

経営管理の変革

『変革の8段階プロセス』

ジョン・コッターの「変革の8段階プロセス」

- Step 1 緊急課題であるという認識の徹底 (Sense Of Urgency)
- Step 2 強力な推進チームの結成
- Step 3 5分で話せるビジョンの策定
- Step 4 徹底したビジョンの伝達
- Step 5 ビジョン実現の障害を取り除く
- Step 6 短期的成果を上げるための計画策定・実行
- Step 7 改善成果の定着とさらなる変革の実現
- Step 8 新しいアプローチを根付かせる

デジタル化

『デジタル化のポイント』

「顧客接点」のデジタル化

「モノ・サービス」をデジタル化

「知識・経験」をデジタル化

「プロセス」をデジタル化

【クラウドシフト（リフト&シフト）】持ち上げて、ズラす

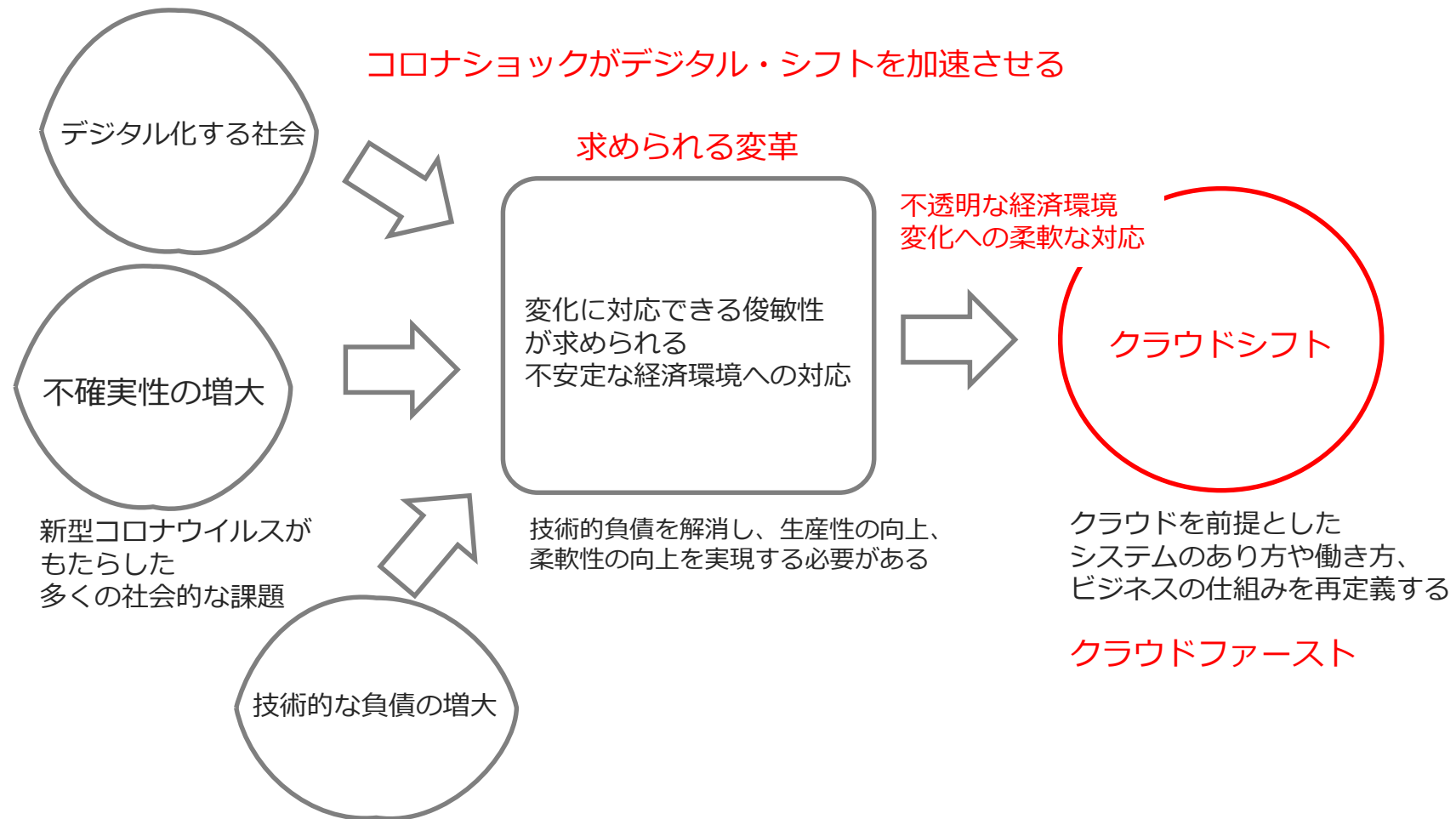
【クラウド・インテグレーション】雲の中でつくる

【ZTNA on SASE + IDaaS】20年の時を超えて…雲を守る

【CPS（Cyber Physical System）】現実と夢の狭間を行ったり来たり

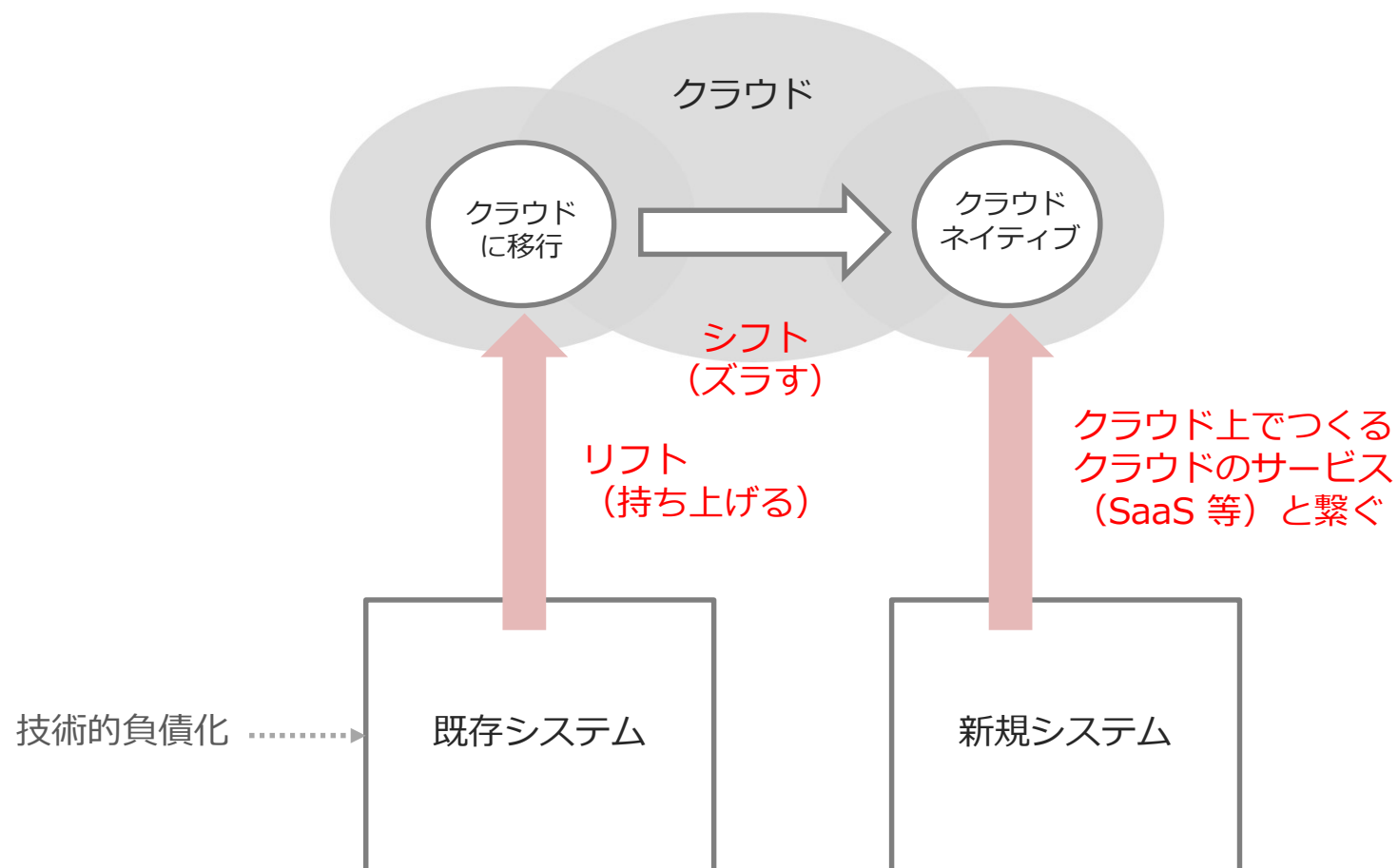
『クラウド・シフト』

VUCA WORLDと呼ばれている不確実性の時代において、新型コロナウイルスの蔓延は、不確実であった潜在的な課題を顕在化し、多くの企業に対して、大きな影響を与えている。
今後も更に不確実性や不確定の要素は増え、不安定で混沌とした社会環境は続いていくと考えられる。

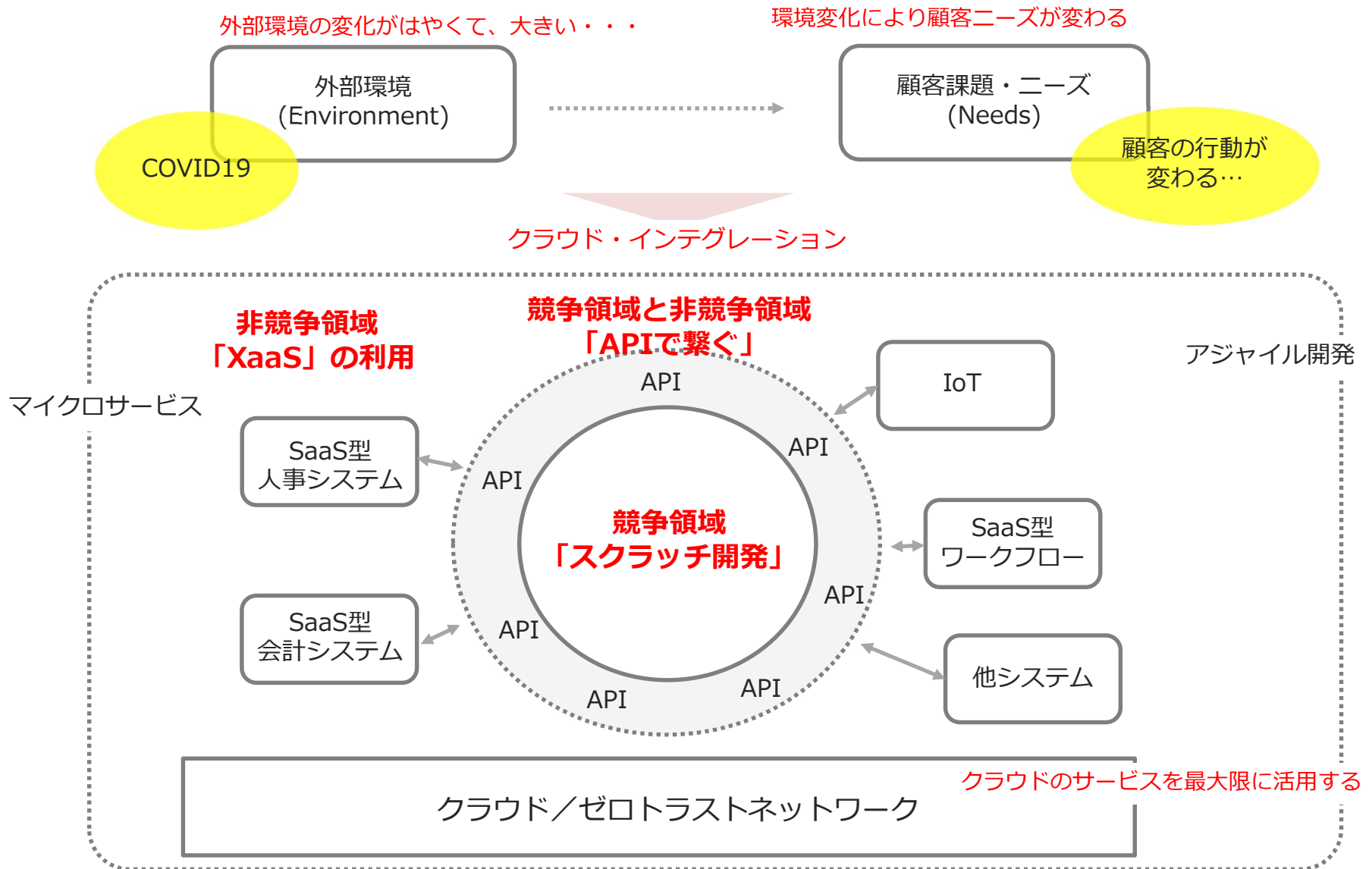


『持ち上げて、ズラす（リフト&シフト）』

技術的負債の解消



『雲の中で作る（クラウド・インテグレーション）』



マネジメント

『いま企業にとって大切なこと』

Sense Of Urgency (危機感)

危機感を煽るのではなく、危機感をきちんと捉える

Resilience (回復力、復原力)

新型コロナウイルスがもたらした経済ダメージからの回復



Dynamic Capability

「企業が環境の変化に対応し、そこにビジネスの機会を見出し、既存の資産・資源・知識・技術および通常能力（オーディナリティ・ケイパビリティ）を再構成・再配置・再編成する」の企業の能力を高める



Zone Management

不確実性が増大する時代において、経営のマネジメントも変える必要がある
その有効なマネジメント手法がゾーンマネジメント

『Sense Of Urgency』

環境の変化を、危機、ピンチと捉えるか？

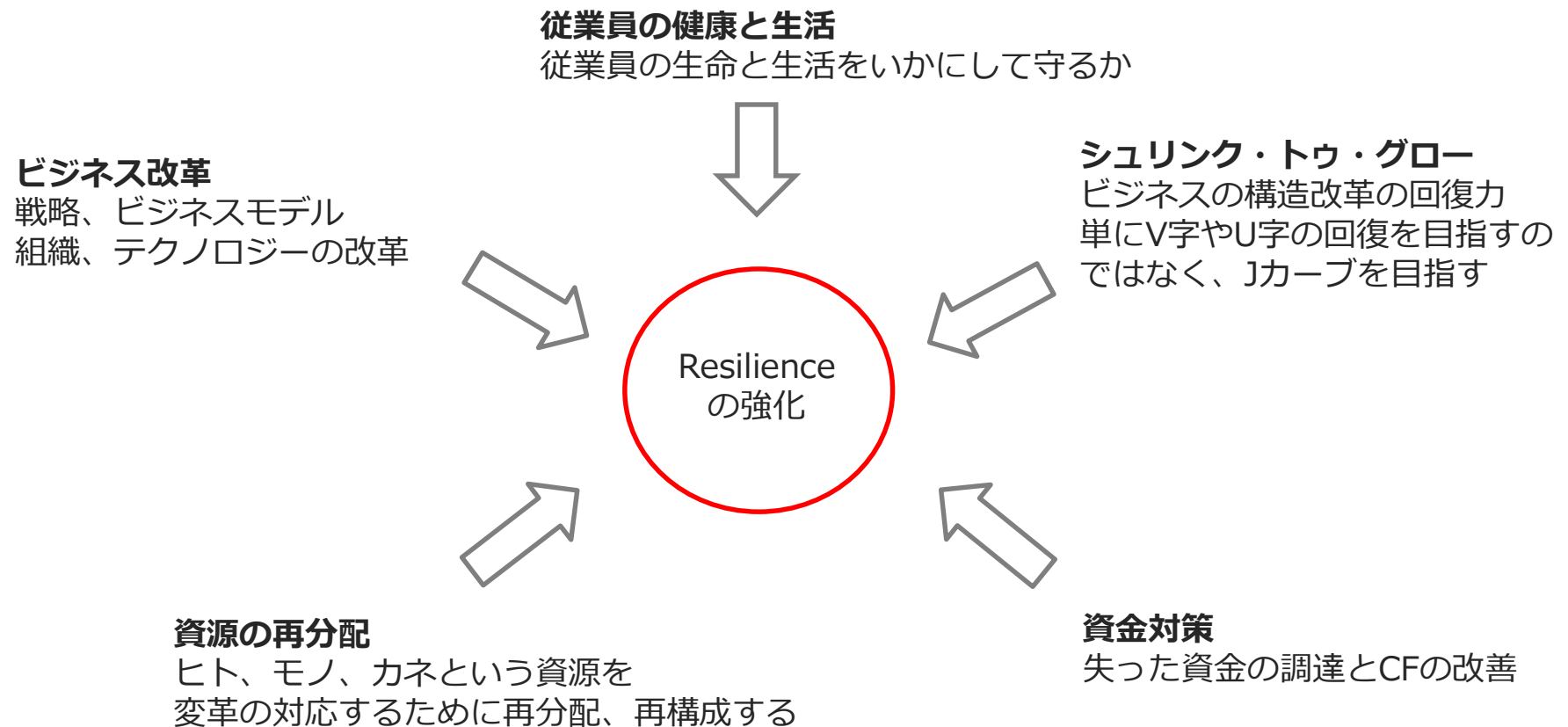
企業変革のチャンスと捉えるか？

「Sense of Urgency」
危機感を煽るのではなく、魂に火をつける

「VUCA WORLD」「コロナショック」を経営の言い訳にしない・・・

『企業レジリエンス（回復力）の課題』

新型コロナウイルスが突きつけた企業レジリエンス（回復力）の課題
急速に変化する環境において、企業のレジリエンスの強化が急務

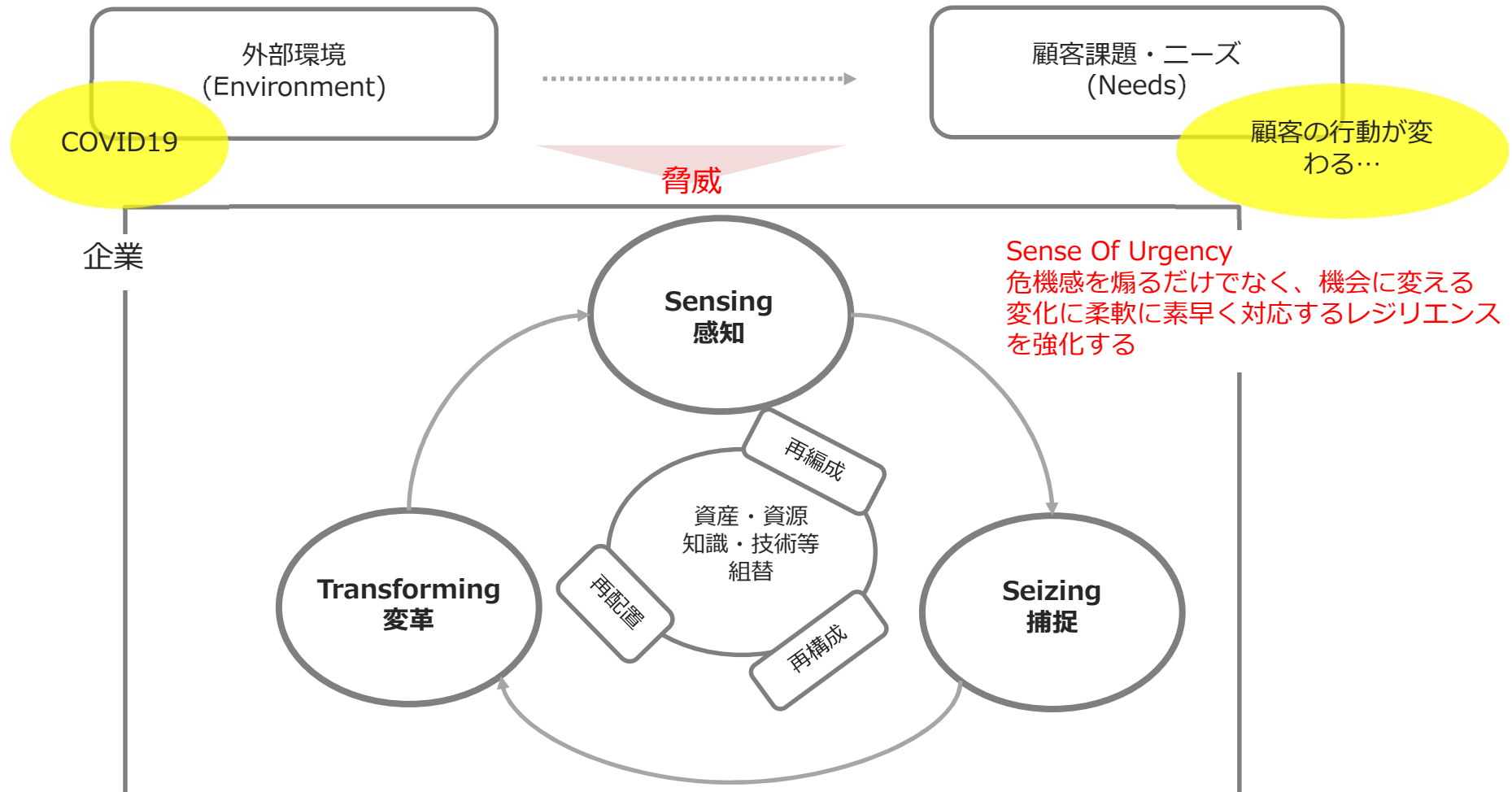


『ダイナミック・ケイパビリティ』

ダイナミック・ケイパビリティとは、企業が環境の変化に対応し、そこにビジネスの機会を見出し、既存の資産・資源・知識・技術および通常能力（オーディナリティ・ケイパビリティ）を再構成・再配置・再編成する」の企業の能力である。

外部環境の変化がはやくて、大きい・・・

環境変化により顧客ニーズが変わる



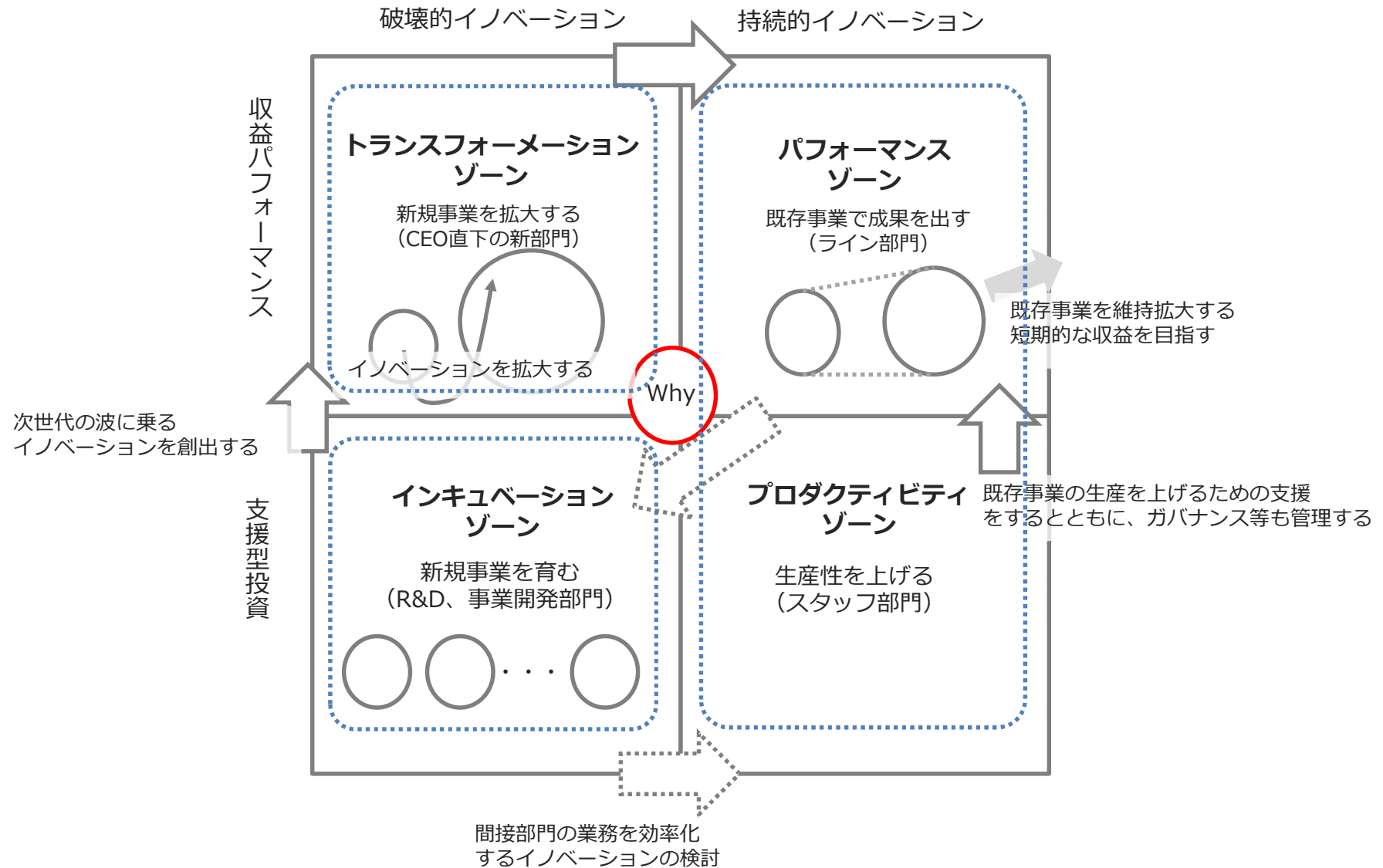
「成功する日本企業には「共通の本質がある」ダイナミック・ケイパビリティの経営学」（菊地研宗著）より加筆・修正

『ゾーン・マネジメント』

	破壊的イノベーション	持続的イノベーション
収益パフォーマンス	<p>トランスフォーメーションゾーン</p> <p>新規事業を拡大する (CEO直下の新部門)</p> <p>ホライゾン2 (2から3年で投資回収)</p>	<p>パフォーマンスゾーン</p> <p>既存事業で成果を出す (ライン部門)</p> <p>ホライゾン1 (翌会計年度による投資回収)</p>
支援型投資	<p>インキュベーションゾーン</p> <p>新規事業を育む (R&D、事業開発部門)</p> <p>ホライゾン3 (3から5年で投資回収)</p>	<p>プロダクティビティゾーン</p> <p>生産性を上げる (スタッフ部門)</p> <p>ホライゾン1 (翌会計年度による投資回収)</p>

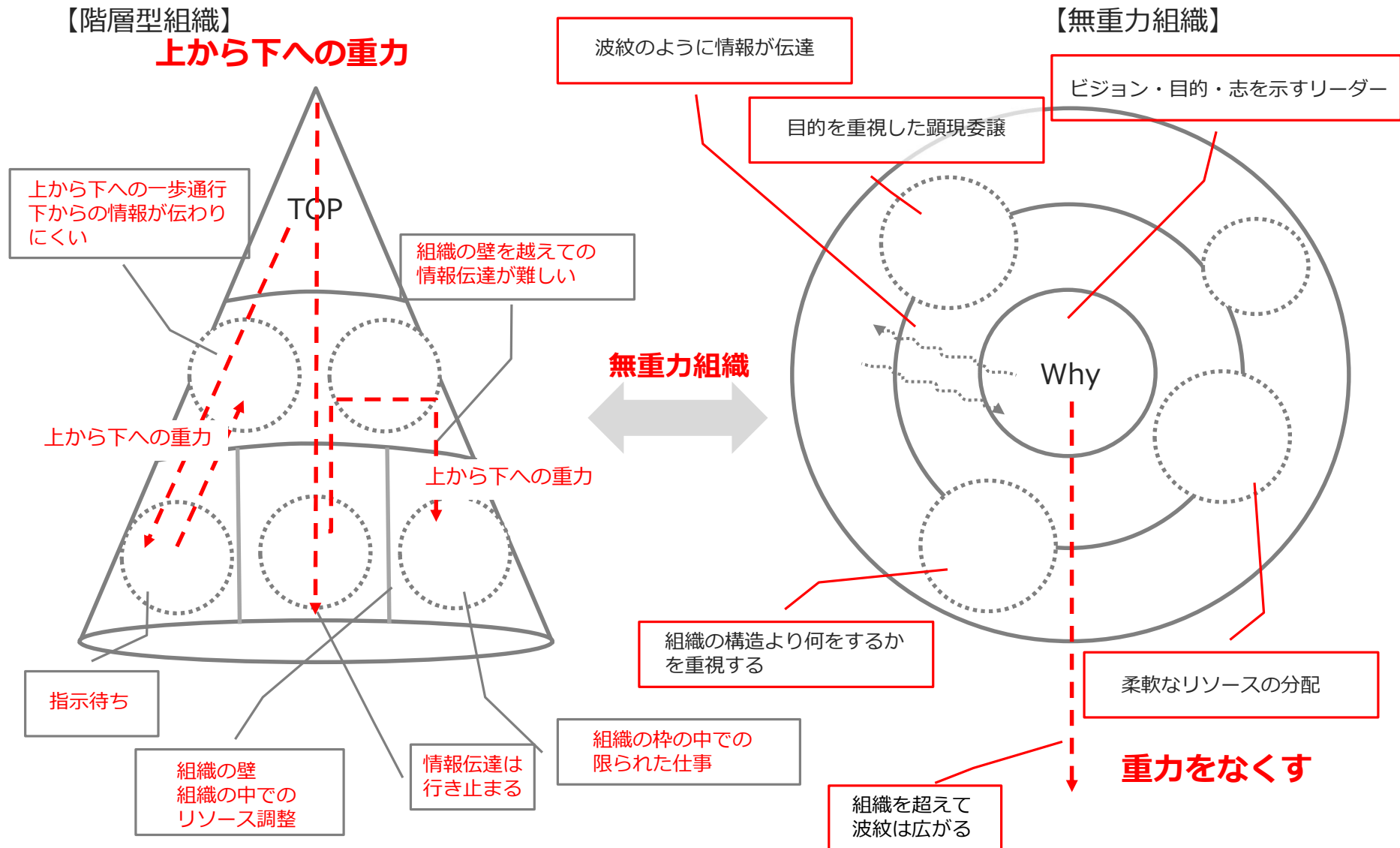
「ゾーンマネジメント」(ジェフリームーア)より加筆・修正

『各ゾーンの連動』



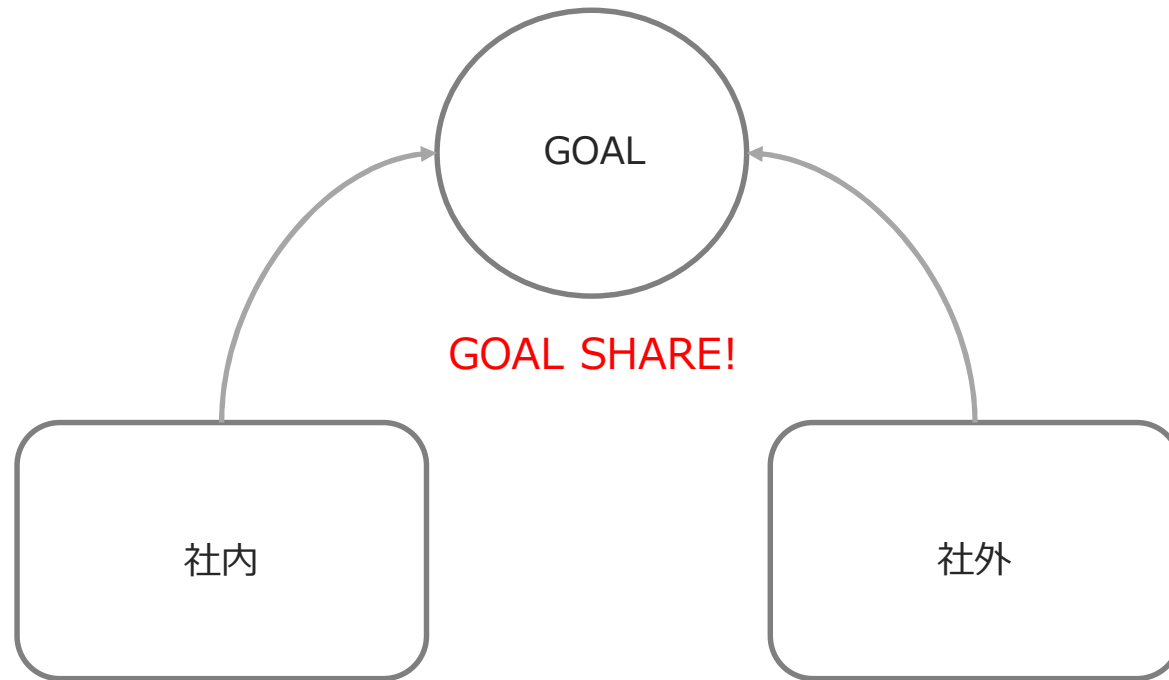
「ゾーンマネジメント」 (ジェフリームーア) より加筆・修正

『無重力組織』



『Goal Share!』

どのようなスキームであっても、重要なことは「Goal (目的)」を共有すること

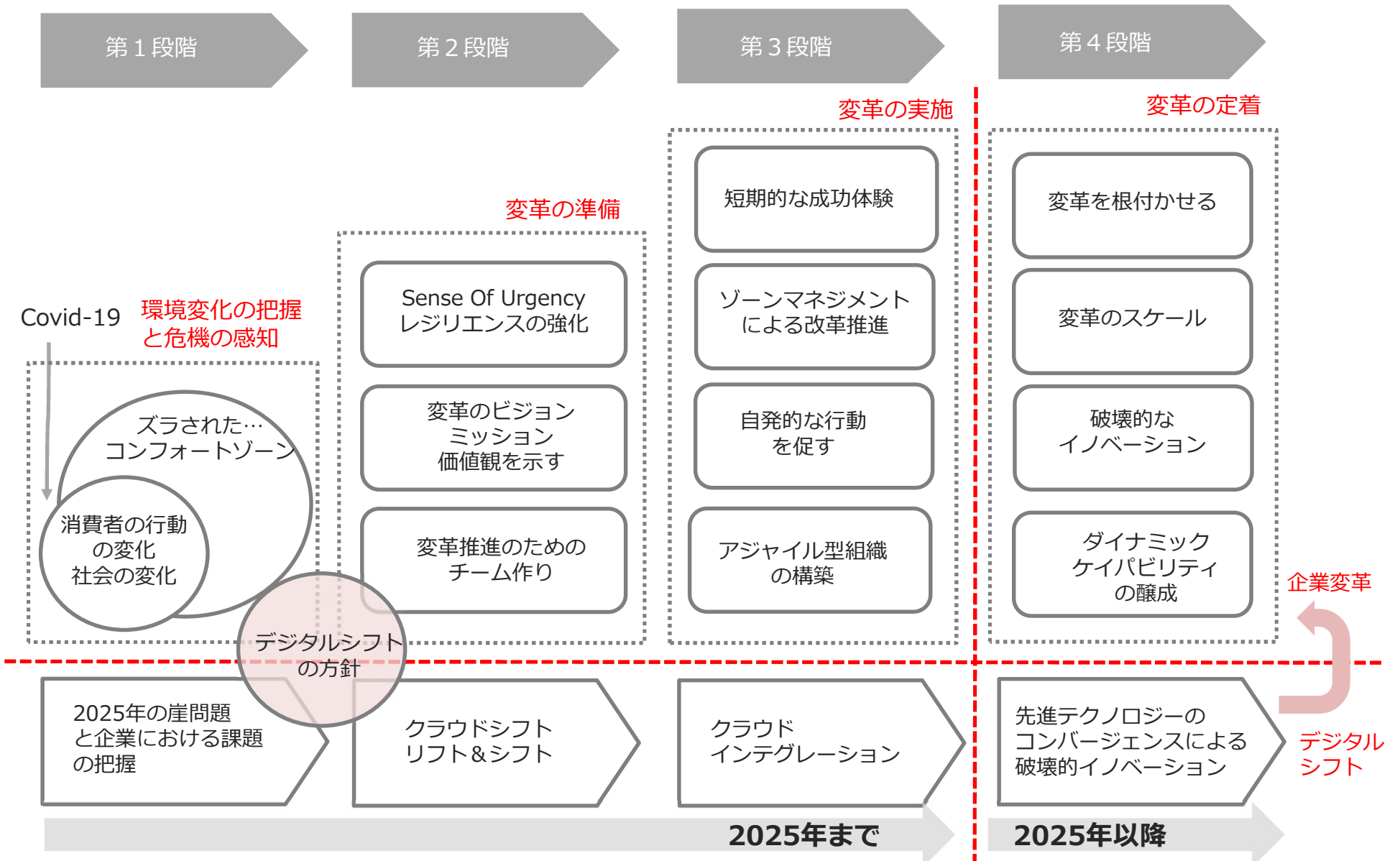


『DXの実現レイヤー』

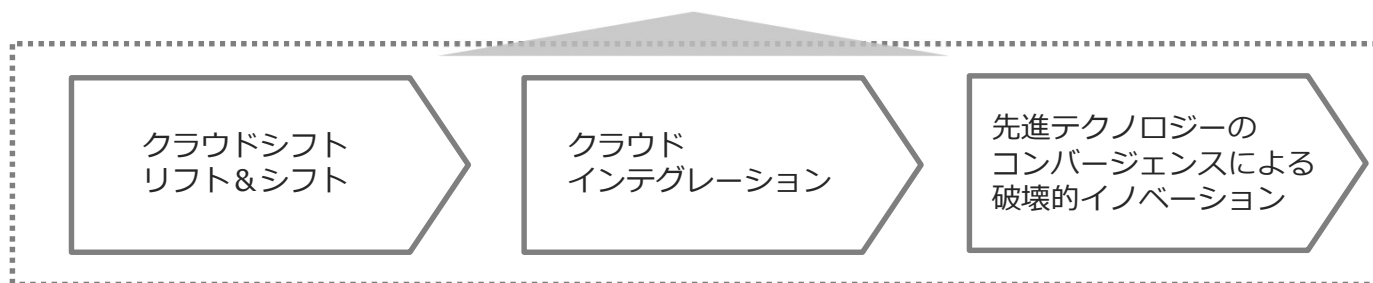
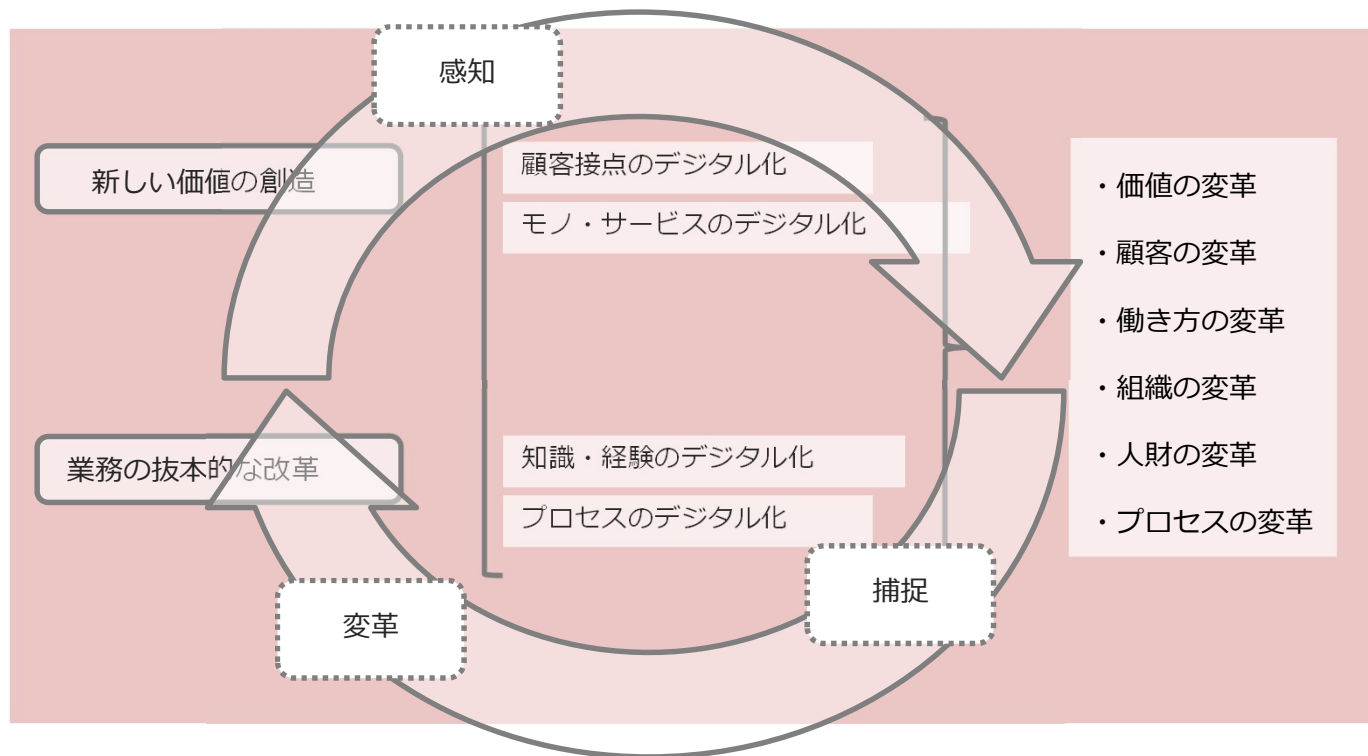
Why		
戦略 ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none">・新しい価値の提供・業務の抜本的改革	経営管理
変革	<ul style="list-style-type: none">・価値の変革・顧客の変革・働き方の変革・組織の変革・人財の変革・プロセスの変革	資産の分配 ・ Zone Management 変革の文化 ・ Dynamic Capability 組織のマネジメント ・ Agile Organization
デジタル シフト	<ul style="list-style-type: none">・顧客接点のデジタル化・モノ・サービスのデジタル化・プロセスのデジタル化・知識・経験のデジタル化	
クラウド シフト	<ul style="list-style-type: none">・クラウドシフト (リフト&シフト)・マイクロサービス/API・ZTNA on SASE・CPS	

「DX」ロードマップ

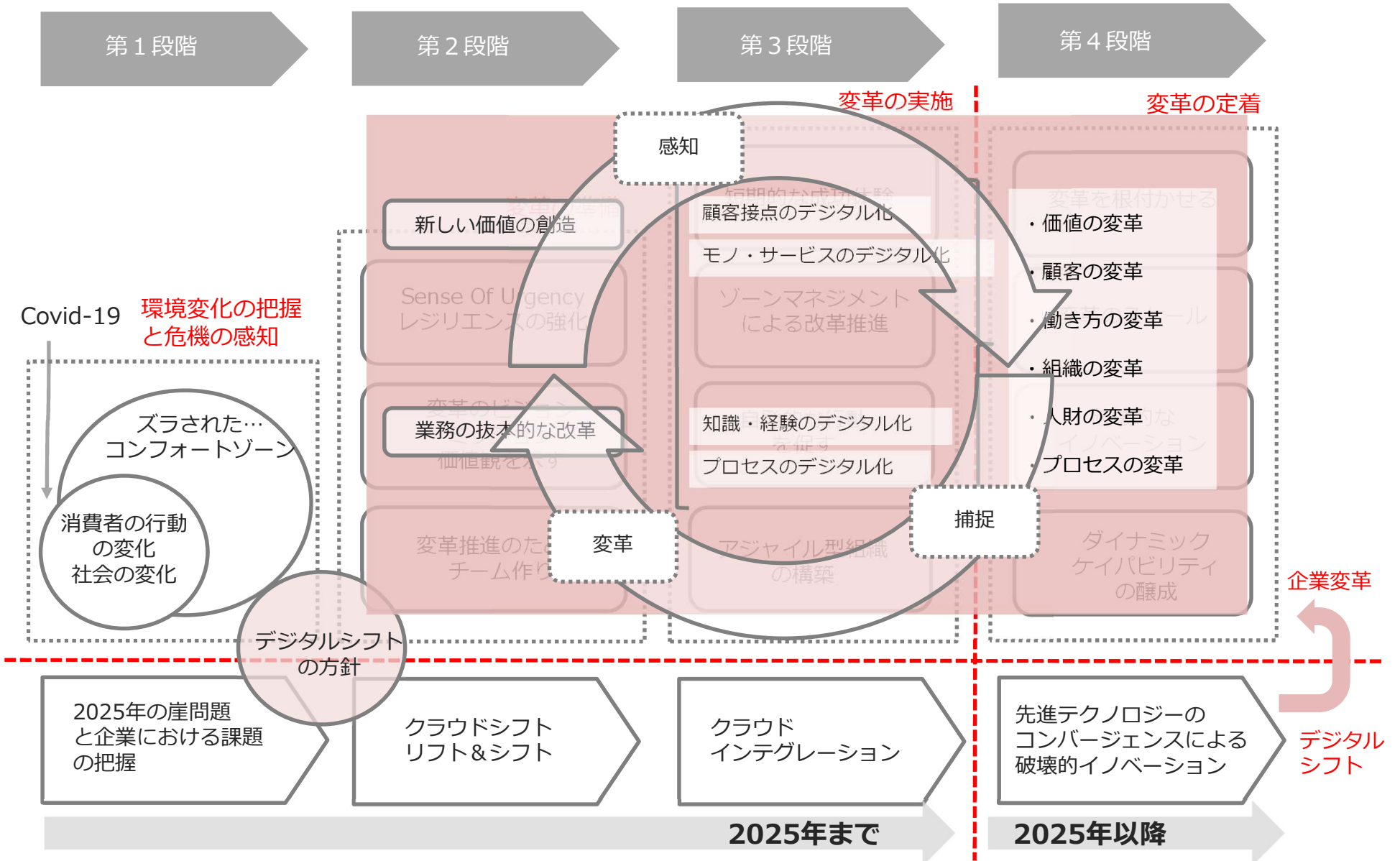
『DXを推進するロードマップ』



『デジタル化』



『立体化する』



会社概要

『Mt.SQUAREのDX』

Mt.SQUAREが提供するDXのゴール

新しい価値の提供 と 業務の抜本的改革



DXによって得られるゴールを見据え、
部分的フォーカス支援も 包括的な支援も可能です。

お問い合わせ先

<https://mt-square.co.jp/contact>

『会社概要』

社名	株式会社Mt.SQUARE
本社所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング 5F
代表取締役	和田 洋
電話番号	03-6268-9251
設立年月	2015年7月
事業内容	企業変革の為のコンサルティング、業務量調査・分析 コンサルティングに基づくオペレーション改革 各種テクノロジーサービスのシステム設計、構築、保守・監視 各種テクノロジーサービスのパッケージ開発、販売、保守・監視 各種テクノロジーサービスのインフラ構築・保守・監視
URL	https://mt-square.co.jp

テクノロジーで働き方を変え 新しい未来を創造する

Mt.SQUARE

2021年7月10日更新 20210710_v1.0